

# 国際標準になった 認定情報技術者 (CITP)

## 編集にあたって

芝田 晃 | 情報処理学会 資格制度運営委員会

情報処理学会は、高度な能力を持つ情報技術者の可視化と社会的地位の向上、つまり、プロフェッションの確立、および、彼らによるプロフェッショナル・コミュニティの形成を目指して、認定情報技術者 (CITP : Certified IT Professional) という資格制度を制定した。2014年度から運用を開始し、すでに約8,000名のCITPを認定してきた。

CITP制度は、国内で広く活用されているITスキル標準 (ITSS) に準拠しているが、さらに、国際的に通用する資格とすることも目指した。このたび、IFIP<sup>☆1</sup>のIP3<sup>☆1</sup>より国際的な認定を取得したので、その認定取得に向けた取り組みや認定取得の意義について、CITP制度の概要も含めて「1. 国際

認定を取得した高度IT人材資格制度」で紹介する。

CITP制度では、申請者個人を直接審査してCITPとして認証することに加えて、企業内の資格制度が、情報処理学会のCITP制度と同等またはそれ以上であることを認定し、その企業内資格の保有者をCITPとして認証することを行っている。「2. 経営戦略を支えるプロフェッショナル認定制度」では、企業内の資格制度がCITP制度の認定を受けたことのメリットについて、企業内資格制度の活用状況とともに紹介する。

CITPの認定に合わせて、CITP同士の交流を通じて自律的に質の向上を図る場として、CITPのコミュニティが結成された。「3. 社会に貢献するCITP

<sup>☆1</sup> IFIP : International Federation for Information Processing, IP3 : International Professional Practice Partnership



「コミュニティ活動」では、CITPに求められる人材像を踏まえて、CITPのコミュニティの活動全体について紹介する。

「4.CITPによる地域復興アイデアソン」では、コミュニティ活動として、企業の枠を越えて新たな価値を創造するために、CITP自らが実践的に問題解決に取り組んだ事例として、東日本大震災からの復興における問題に、現地の大学生とともに取り組んだプロジェクトについて紹介する。

本小特集をお読みになって、CITP制度に興味をお持ちいただき、また、CITPの社会貢献活動をご理解いただき、CITPに申請していただいたり、CITPの活動に協力していただければ幸いです。

なお、CITP制度の詳細や認定申請、ならびにIFIP IP3やCITPコミュニティのサイトへのリンクについては、次に示す情報処理学会のCITPサイトをご覧ください。

<https://www.ipsj.or.jp/citp.html>

(2018年7月17日)